

会 議 記 録

会議名称	令和5年度第2回通学路安全対策推進懇話会
日時	令和5年11月9日(木) 午前9時05分～午前10時15分
場所	秦野市役所西庁舎3階大会議室
出席者	別紙「出席者一覧」のとおり
次第	別紙「次第」のとおり

会議の内容は、次のとおりです。

事務局
教育部長

<開会>

<教育部長挨拶>

前回懇話会では、今年度学校から提出された通学路整備要望内容をご確認いただいたが、本日はそれぞれの対策案についてご確認いただき、ご意見をいただきたい。

対策案の検討に当たっては、8月に秦野警察署、市の関係部署及び学校関係者による合同点検を行ったが、前回懇話会での平井委員からのご意見を受け、地域の代表として、自治会連合会会長の岩崎委員と、要望箇所自治会長にも一部箇所において合同点検にご参加いただいた。

更に新たな試みとして、鈴木委員からのご意見を受け、一部箇所において児童の登校時間帯に合同点検を実施し、実際の通学の様子を踏まえた対策案を検討することができた。

本日二つ目の議題では児童生徒の交通事故発生状況についてご確認をお願いしたい。こちらは前回懇話会で岩崎委員からいただいた、通学路でのヒヤリハットに関するご質問を受けたもので、事務局で交通事故の発生状況を整理し、資料としてまとめている。

また、古谷委員におかれては日頃より子どもたちの交通安全のためご指導ご助言をいただいているが、教育委員会としても、昨今ヘルメット着用が努力義務となる中でも増加している自転車事故防止を図るため、今月6日に湘南ベルマーレ及びソ

フトバンク社と協働し、本町中学校で自転車教室を開催した。

今後も当懇話会でいただいたご意見を着実に通学路の安全対策に反映させていきたいと考えている。本日も皆様の視点から様々なご意見をいただきたい。

事務局

<議題1 令和5年度通学路整備要望に対する対策案について>

～資料1-1、1-2について説明～

鈴木座長

特に抜け道となっている道路では朝の車の速度が速く、このような部分を通学時間帯の合同点検で確認できたことは非常に良かったと思う。また、岩崎委員には実際に地域の代表として合同点検にご参加いただき、これも大変重要な一歩となったと思う。

皆様からも、ご意見等あれば発言をお願いしたい。

岩崎委員

対策実施の優先順位は定めているか。

事務局

要望箇所別に危険の程度は把握しているが、危険が大きいからといって必ずしも対策がとれるとは限らない実情があるため、優先度の設定までは実施していない。

岩崎委員

完全に車と歩行者を隔離するのが一番だが、現実的には難しい。代案も組み合わせ、着実に改善していく方法を探ることが重要と感じる。

鈴木座長

要望に対しての対応と、課題に対しての対応は、必ずしも同じではない。要望を出す側は専門家ではないので、出された要望とは別の対策のほうがその箇所の構造に適している場合もある。その箇所の課題を正確に把握し、これに対してどの程度解決できるかという考え方にすると、要望通り実施できない、ではなくここは叶えられる、という考え方にできる。学校や地域にも、様々な取り組みやそれにより叶えられることを情報提供し、理解を得ていけたら良いと感じる。

事務局

我々としても、要望に対しての対応可否に着目しがちであるので、課題に対する対応という部分は今後意識していきたい。

また、以前からご意見いただいている、子ども自身が危険を回避できるような教育をしていくことが重要という点について

	も引き続き大きな課題として考えていきたい。
鈴木座長	出来るだけ歩行者と車を分けようとしても、必ず交わる地点があるし、交わる地点も交通安全教育の一環として必要な部分だと感じる。全てをハード面のみで解決させないというのも一つの方策なので、引き続き教育とセットで取り組みを進めていただきたい。
岩崎委員	代替案による対応例での対策内容がそれぞれどのようなものか具体的な説明をお願いしたい。
事務局	～交差点マーク、減速を促す路面標示、カラー舗装、歩行者横断指導線について説明～
岩崎委員	歩行者横断指導線の費用は横断歩道と比べてどうか。
建設管理課	横断歩道は規制を伴うため警察の管轄であり、歩行者横断指導線は規制ではないため、我々道路管理者が設置している。比較対象とするのは難しいが、費用としては大きな差はないと認識している。
事務局	～啓発看板、歩行者向け路面シールについて説明～
地域安全課	路面シールは子どもの目に留まるようキャラクターものを使用しており、経年劣化で薄くなった際は貼り直し対応もしている。子どもの背の高さでは、高い位置にある標識は目に入りにくいいため、路面に設置することで飛び出し防止に効果があると考えている。
平井委員	実際に渋沢小学校の近くにも路面シールがあり、普通の道路標識よりは、子どもたちの目に留まっている印象がある。
事務局	～車止めポール、ラバーポール、スクールゾーン標示について説明～
鈴木座長	ポールについて、駐車車両対策として使用するケースもあるが、そのような箇所はあるか。
事務局	主に交差点の角に設置し、横断待ちの歩行者を守る目的で設置している箇所はある。
岩崎委員	主な対策内容の中に横断歩道の設置とあるが、警察から許可が下りたのか。
事務局	現在警察が上申中でまだ許可は下りていないが、その箇所は

	<p>登校時間帯の合同点検を実施した箇所である。横断歩道の新規設置は対策の中でもハードルの高いものの一つだが、児童と車両で混雑する朝の様子を実際に確認したことで、警察でも危険を認識されて、検討していただけることになった。</p> <p>朝ならではの課題の認識から対応に繋がったという点で、登校時間帯の合同点検を実施した効果があったと考えている。</p>
平井委員	<p>当該箇所は渋沢小学校の要望箇所で、私自身朝の時間帯に同行指導しているが、抜け道となっており朝は通勤で急ぐ車両が多い。</p>
鈴木座長	<p>箇所の特性によっては点検すべき時間帯が下校時になる可能性もある。学校や地域の意見等も含め、箇所の特性に応じて今回のように点検の仕方にバリエーションを持たせたのは良かったと感じる。</p>
	<p>～その他意見等なし～</p>
事務局	<p><議題2 児童生徒の交通事故発生状況について></p> <p>～資料2について説明～</p>
岩崎委員	<p>事故のデータは警察からのものか。</p>
事務局	<p>学校からの報告を基にしたデータであり、プライベート中の交通事故で学校が関知していないものについては入っていないため、警察で把握している交通事故数とは一致せず、実際にはこのデータ以上に交通事故は起きていると認識している。</p>
平井委員	<p>特に放課後については保護者の判断で学校に連絡があったもののみとなるため、やはりデータ以上に交通事故はあると思う。</p>
事務局	<p>救急搬送等重大な案件が報告されているため、報告に含まれないヒヤリハットは更に多いと予想される。</p>
岩崎委員	<p>ある子どもがヒヤリハットに遭遇すれば、他の子どもも同じ箇所でも危険な目に遭う可能性がないとは言えない。ヒヤリハットがあれば些細なことでも先生に話してもらってデータを蓄積できれば、対策必要性の判断材料にもなる。このような報告と集約の流れがあると、子どもの交通安全意識も高まるのではないかと。</p>

平井委員

子どもや保護者、地域の方から登下校中のヒヤリハットについて情報共有があり、その箇所を通る登校班等を特定できる場合には、該当児童に対しての交通安全指導を行っている。また、その児童の保護者に対しても指導の内容をお伝えしている。

資料からも分かるように、やはり小学1～3年生までは自分の身を守る意識がまだ低い。交通安全教室や学級活動の場面で学ぶ時間を設けているほか、秦野市の場合は登校班があるので、年に何回かは班ごとに集めて安全な登校の仕方を指導している。

鈴木座長

教育については子どもが自分で危険に気づくということが重要なポイントだと考える。本人が危険に気づいていないヒヤリハットもあると思うので、危険の察知に意識を向けるような取り組みがあると良いかもしれない。

資料のデータについてはコロナ禍で登校がある程度制限されていた時期もデータに含まれているが、件数はさほど変わらず、コンスタントに事故が起きている印象。また、車側の不注意の中には低学年の子どもが小さくて見えにくいというものもあるのではないかと。時には子ども自身が存在をアピールしたり、予想しにくい動きを控える等、車両に配慮した歩き方で自分の身を守ることを指導していくと良いと思う。

岩崎委員

飛び出し事故が多いという点について、先日北地区でも、児童館付近でキックボードで遊んでいた子どもが交差点に飛び出してしまい、車に接触し救急搬送された事故が発生している。カーブミラーや路面シールがあっても、キックボードである程度スピードを出しての飛び出しとなると対策が難しいと感じるが。

建設管理課

カーブミラーについて、運転者は見通しが悪い場合でも基本的には直接目視で安全確認をして交差点に出ることが前提であり、ミラーはあくまで車両対車両の補助的な安全施設になる。歩行者を見ることも不可能ではないが、ミラーで事故を防ぐというよりも、やはり学校や教育委員会だけでなく、保護者がど

こまで子どもに交通安全教育できているかが大切になってくると考える。

事務局

今回初めてこのようなデータをまとめた中で、サンプルが少ないなりにある程度参考になると感じているので、今後もデータを積み重ねながら、対策の検討に役立てていきたい。

鈴木座長

このデータは学校にフィードバックするのか。

事務局

各学校にも報告したいと考えている。

鈴木座長

取り組みの内容を学校にも知っていただくべきだし、データを分析したこと、今後も分析を続けていくことを意思表示することで、今後ヒヤリハットの情報収集を進める場合など、学校への声掛けもしやすくなるのではないか。

平井校長

登校班について、学校が主導で登校班を編成していると認識している方が多いが、法的には、登下校中の安全確保の責任者は保護者となっている。また、学校保健法で通学の安全については学校も地域と協力する必要があると定められており、そういう立場で私もここに出席していると認識している。

あくまでも、1年生が一人で学校まで歩くのは危険だから、近所の子どもで集まり年上の子が連れて行こう、というところから始まっているものであり、近所だけでは取りまとめが難しいのでPTAが、PTAが関わるので学校が、という流れで来ている。この図式は実は教職員の間でも認識が薄いところである。

難しい部分であるが、この認識の下、本来であれば各家庭においても交通安全意識を高めていただきたいところで、なかなか認識されていない部分として、お伝えした。

鈴木座長

保護者も正しい交通安全知識を学ぶ機会を持てることが望ましい。冒頭でお話しのあった湘南ベルマーレの自転車教室のような交通安全イベントを開催する機会がまたあれば、保護者と一緒に学ぶ時間を設けるのも良いかもしれない。

教育部長

湘南ベルマーレの自転車教室では、講演と実際に自転車に乗っての実演があったが、なかなか大人も知らないような自転車のルールも多く挙げられており、子どもは勿論保護者にも参加してほしいと感じるものであった。

鈴木座長

関連して、見守りボランティアの方々にも交通安全教育の機会があると良いのではないかと。

また、地域によっては高校生が街頭に立って見守りしているという事例もある。上の学年の子が下の学年の子に教える文化があると、高学年のほうでもルールを守るようになるということで、近年取り組み事例が増えているが、教え合う中に保護者も入って来ることで徐々にルールは守られていくと思うので、すぐにできることではないが、意識すべきことであると感じる。

事務局

今年度、本町中学校の生徒が通学路の危険箇所をデジタルマップに落とし込み、それを活用して本町小学校及び末広小学校の児童に交通安全講習会を開催している。ソフトバンク社との連携協定に基づく事業として、来年度以降も拡大していく予定があり、今後中学生と小学生の関りが出来ていく可能性があるため、動向を注視していきたいと考えている。保護者等への交通安全教育についても、長期的な課題として、何が出来るか考えていきたい。

～その他意見等なし～

事務局

<議題3 その他>

事務局から、2点ご報告させていただきたい。

～資料3について説明～

神奈川県交通死亡事故多発警報の発令については、教育委員会から小中学校に情報提供しており、改めて交通ルール遵守とマナー向上の指導徹底をお願いしている。警報期間は既に過ぎているが、委員の皆様が所属団体でもぜひ共有していただきたい。大人も含め、交通安全意識の向上に繋がればと考えているので、参考までにご報告させていただいた。

続いて、通学路見守りサポーター制度についての報告となるが、昨年9月に制度を開始し、皆様から助言をいただきながら1年程経過した。登録者の方々には、下校時や放課後の見守り、気がついた危険箇所の情報共有など、思い思いに活動していただいているが、登録人数の伸びが鈍化しているため、9月

に市のLINEを活用して改めて募集を行い、新たに2名の方にご登録いただいたところ。

しかし、登録者の活動地域に偏りがあり、まだ登録者がいない学区もいくつかある点を課題として捉えている。今後、学校を通じての周知や、場合によっては自治会の方にもお知らせをするなど検討しながら、引き続き募集を続けたいと考えている。

～意見等なし～

<閉会>

事務局